

2023年12月期 第1四半期決算説明会 質疑応答の要旨

2023年2月9日に開催した2023年12月期 第1四半期決算説明会(機関投資家・アナリスト・報道関係者向け)における主な質疑応答の要旨は下記の通りとなります。

Q1. 第1四半期の実績と今後の見通しについて

A1. 期初の見通しに対しては、おおむね想定通りの進捗であった。前期実績に対しては、FY2022/1Qが好調だったため、ハードルが高いなかでも増収の着地となった。

足元のデジタルマーケティング事業においては、市場動向を踏まえて顧客数の拡大を重要視しながら4月以降の案件を中心に受注を進めている。また、IPプラットフォーム事業においては4月より「山田くんとLv999の恋をする」のアニメ配信が開始するため、IPの認知拡大による増収効果を一定程度計画に織り込んでおり、両セグメントとも特に第3四半期以降での成長率の上昇と利益の伸びを見込んでいる。

Q2. 人的投資について

A2. 第3四半期以降において、新卒採用強化及び人事システム改定による人的投資強化に伴い販管費が増えるが、人的投資による費用の増加をトップラインの伸びで打ち返すことを計画している。

Q3. デジタル広告市場について

A3. デジタル広告市場全体の成長率低下の要因の一つとしてショートビデオの影響は大きく、短期的には広告単価の低下が市場成長率に一定影響していると推測している。

Q4. デジタルマーケティング事業の実績について

A4. 電通提携と新規連結分を除いたデジタルマーケティング事業のオーガニックはマイナス成長となつたが、前期実績が好調だったことが要因であり、当初の計画どおりに着地した。

Q5. (株)電通デジタルとの協業について

A5. ソリューション領域における協業は着実に拡大しており、直近では電通デジタルの上流案件に対する当社のエンジニアリングリソースの供給を中心とした事業連携が進んでいる。当社業績への貢献としては、エンジニアの人月単価上昇と稼働エンジニア数増加の掛け合わせによって今後も成長を加速させていきたい。

また、データプライバシー規制に対する取組みとしても、広告以外のソリューション領域においてデータ基盤構築への需要が高まっており、これに対しても対応を強化したい。

Q6. IPプラットフォーム事業の見通しについて

A6. 計画通りに増収し、赤字幅も順調に縮小しているが、今期中の黒字化は計画していない。この背景としては、Webtoon、海外市場への進出を見据えたWebtoon制作体制強化のための先行投資を計画に織り込んでいるためである。

以上